



日台稲門会

NEWS LETTER 第14号

平成20年(2008年)民国98年

10月1日発行

発行 日台稲門会事務局
編集 石川・小野間・齋藤

猛暑の中での北京奧運2008も無事終了、ご鼻頂の競技には連日連夜熱い声援を送られたことと存じます。さて、もう十三夜も迎えてしまいました、日台稲門会ニュースレター2008年秋号をお届けします。

日台稲門会・台湾校友会NEWS

第12回日台稲門会定期総会・第9回日台交流の集い 盛大に開催される

4月26日(土)

15:00～ 総会及び記念講演会:大隈会館301号室

17:00～ 日台交流の集い:大隈会館201号室

19:00～ 二次会:校友サロン(大隈記念タワー16F)

定期総会議事に先立ち、昨年11月に逝去された当会名誉会長(第二代会長)・村野賢哉氏を偲び、全員で黙祷を捧げました。

- ・第一部 定期総会:活動報告、決算報告、今年度活動計画案、予算案、会長選任、新役員承認、会計年度変更の7つの案件が審議され、全て原案通り決議されました。

主な点は、辞意を表明された白鳥和夫会長に代わり、幹事会において推薦された石川公弘氏を満場一致で第四代会長に選任、同時に新任の岩永康久さん、北村友雄さんを含む新幹事を承認、また会則第13条が改訂され、会計年度が4月1日～3月31日となりました。なお今年度は変則的に平成20年1月1日～平成21年3月31日の15か月となります。

- ・第二部 記念講演会:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長の天児慧教授より、「台頭する中国と中台関係」と題してご講演を頂きました。

天児教授は現代中国論がご専門で、限られた時間の中で、急増する中国の国力、2010年代初頭のアジア国際環境の中での中国の存在感と21世紀戦略、台湾の総統選挙と中台関係などを客観的且つ丁寧に講演されました。天児教授の中国共産党に対する中国人留学生観(「三つの代表」論の無知識、共産党に対する無関心)や「和諧世界」の追及による責任ある大国論を聞き、自分の中国観を変えていかなければならないと思いましたが、長野や諸外国の聖火リレーにおける中国人留学生や赤シャツ軍団の傍若無人振りを見る限り、その偏屈な愛国主義と身勝手な国民性は変わらず、中国(人)に対する不信任感と脅威は払拭できませんでした。

【天児慧(あまこさとし)】早稲田大学大学院アジア太平洋研究科科長 早稲田大学教育学部卒業、一橋大学大学院博士課程修了、社会学博士

- ・第三部 日台交流の集い:お馴染みとなった神田幹事と丸山香おりさんコンビによる司会で進行、石川

新会長の開会挨拶、来賓祝辞の後、台北稲門会会長・川田博幸氏のご発声による乾杯を合図に開宴しました。



台北稲門会川田会長が乾杯のご発声

今年は34名強の留学生も参加と台北駐日経済文化代表処から贈られた見事な生花が会場の雰囲気盛り上げ、主賓・許世楷代表の留学生への励ましの言葉は、台湾の民主主義維持を後輩に託す先輩の励ましに聞こえました。来賓や大学関係者、講師、留学生を中心に会員との歓談・交歓の輪が広がり、台湾で大活躍され今年より新幹事に就任した岩永、北村両会員からの力強い挨拶、留学生紹介挨拶等でさらに盛り上がりました。最後に、3月の早稲田大学野球部台湾遠征で応援の指揮を執り台湾ですっかり有名人となった、行政書士稲門会副会長・山下政行さん指揮で校歌「都の西北」を全員で斉唱し、盛会裡に終了しました。(事務局:小野間恒夫記)

出席者(順不同、敬称略)

【来賓】許世楷・台北駐日経済文化代表処代表、李世昌・同文化部長、堀口健治・早稲田大学副総長、桜井直子・同募金局副部長、梅森直之・早稲田大学台湾研究所長、天児慧・早稲田大学大学院アジア太平洋研究科科長、川田博幸・台北稲門会会長
会員:33名、校友:8名、留学生:34名、計82名



二次会(三次会?)で、山下、大嶋、北村の諸氏

兒玉神社の例大祭に参拝しました

第4代台湾総督として、台湾の発展に尽くした兒玉源太郎を祭神とする兒玉神社の例大祭が7月27日(日)執り行われ、石川会長(李登輝友の会神奈川支部長) 栗山会員、一色幹事、小野間幹事長が参加しました。

兒玉神社は社殿や神楽殿が台湾の阿里山檜で造られ、神楽殿の前にある狛犬も台北の観音山から切り出した観音石を用いるなど台湾と縁が深い神社であり、高座海軍工廠の台湾少年工たちもよく参拝していたといわれています。また昨年の例大祭には、李登輝元総統が「兒玉神社」と揮毫された扁額も奉納されました。

日台稲門会の皆様にも是非訪問をお勧めします。

日台稲門会NEWS

許世楷代表ご夫妻送別会に出席しました

日本と台湾の友好に大きな貢献を果たした許世楷(コー・セカイ)臺北駐日経済文化代表處代表と、妻として代表に寄り添いつつ台湾民主化運動に血の滲むような活動を続け、児童文学者としてもご高名な盧千恵(ロー・チェンフィ)女史お二人とのお別れ会(当会共催)が、6月1日(日)午後6時よりホテルオークラ東京・平安の間で開催され、全国から約800人が駆けつけ、当会からも有志が参列しました。

冒頭、安倍晋三・前総理がご夫妻の若き時代の民主化運動のご苦労を労うと共に、代表としての四年間に及ぶ日台友好への貢献を讃え、やや早すぎる帰国を惜しむ言葉を述べられました。

その後、ご夫妻と親交の深い各界の著名人が次々に登壇して惜別のご挨拶をされました。

許世楷氏が代表を務められた代表處には当会は大変お世話になりました。今年の総会にも代表にご出席頂きました。また昨年の総会には盧千恵夫人をお招きして「台湾の児童文学」という演題で講演をし

6月1日(日)18:00 ~ ホテルオークラ・平安の間

て頂きました。ご夫妻とは大変縁の深い当会でありました。

どうかこれからも、日台親善にお力をお貸し頂きますように心よりお願い申し上げます。



許代表と名残を惜しむ

(日台稲門会ホームページ <http://members2.jcom.home.ne.jp/nittai/080604kyoseikaiabe.html> より)

駐日代表に馮寄台・前駐ドミニカ大使を起用

台湾外交部は8月19日、許世楷氏の後任の駐日代表に馮寄台(ひょう・きたい)元駐ドミニカ共和国大使が内定したと発表した。総統選挙中において国民党・馬英九陣営の国際部主任(外交顧問)として活躍。父親も外交官で、小中学生時代の5年間を日本で暮らした経験がある。

馮寄台 南京市が原籍の外省系、ハーバード大学では馬英九現総統の先輩格で、公共行政修士を取得。1973年から外交部に勤務。米国大使館や中央通信社編集長、儀典長を経て2003年4月から駐ドミニカ大使を務めた。外交官として対日関係に従事したことはない。専門はスペイン語だが英語は勿論、日本語も堪能。62歳。

会員コラム

当会幹事で元台北稲門会会長の北村友雄氏が6月10日、「台湾友好ひろしまネットワーク」総会に招かれ、「私が見てきた最近15年の台湾と今後」という演題で講演をされました。

講演会の様子を、当会会員で上記ネットワークのメンバーでもある井上浩氏(元台北稲門会会員)に寄稿していただきました。(日台稲門会ホームページより)

北村さん、広島にて講演！

井上 浩(昭和63年法学部卒業)

日台稲門会の皆様、こんにちは。3月には、広島で行われた早稲田大学とシカゴ大学との野球の交流試合についてレポートさせていただいたところです。今回は、6月10日に台北稲門会元会長の北村友雄さんが、広島に来られ、台湾友好ひろしまネットワーク総会で「私が見てきた最近15年の台湾と今後」というテーマで講演されましたので、その模様をご報告します。

広島にも、以前、台湾に住んでおられた方、現在、仕事で日台交流に取り組んでおられる方々、大学で台湾を研究されている方々など、様々な縁で台湾とつながりのある方がおられ、同時に台湾関係の色々なグループや会があります。こうした人たちやグループを一つに結ぼうと結成されたのが、「台湾友好ひろしまネットワーク」です。メンバーは、日華友好広島県議員連盟の県会議員、広島県庁の職員、大学の先生、台湾から帰化された企業の経営者、そして留学生等々と、まさに様々な分野で台湾に縁のある方が参加されています(ということで、私・井上もメンバーに入れていただいております)

このネットワークの年1回の総会を開催するにあたり、「今は、誰もが台湾の政治情勢に非常に関心があるので、いい話ができる人がいないか」ということで、白羽の矢がたったのが、われらが北村さんで、今お住まいになっている横浜から、はるばる広島まで来ていただいたということです。

当日は、50名を越える多くの出席者の中、林正夫広島県議会議長の来賓ご祝辞を頂き、諸々の議事のあと、いよいよ北村さんの記念講演「私が見てきた最近15年の台湾と今後」となりました。北村さんの元気で人をひきつける話し振りは、日台稲門会の皆様がよくご存知のところ。私自身、帰国後は北村さんをはじめ皆様となかなかお会いする機会がなく残念なのですが、この日は、北村さんと一緒に台湾での稲門会活動を思い出しました。

まず、台湾の族群問題から入り、それぞれの族群の歴史的経緯と、ご自分が接してきた経験を踏まえ

ての特徴をお話になりました。そして、次は、参加者が最も関心のある台湾の選挙、政治情勢について、これまた、ご自分が自宅の窓から見た台湾の選挙活動の様子、選挙活動をしている人に直接ご自分が話しかけられて得た話などを披露されました。まさに、報道や本に書いてある内容ではなく、約15年間実際にご自分の目で見てきた政治情勢、それにより感じた話をされて、もっと聞きたいと思っているうちに、残念ながら会の進行上、予定時間となってしまいました(本来なら、台湾人の生活についても、いろいろとお話される予定だったのですが、本当に残念です)。しかし、講演後の懇親会では、多くの方が北村さんのもとに集まり、いろいろな質問や活発な意見交換をしておられ、私としても、本当に、北村さんに来ていただいてよかった、と非常に満足いく会となりました。



講演を終えて、左から井上氏、北村氏

当日は、広島稲門会からもご参加いただくなど、早稲田と台湾のつながりは、広島でも健在です。これからもこうした早稲田と台湾のつながりをずっと大切にしていきたいと思いながら、徐々に北村さんと2次会までお付き合いいただきました。非常感謝。

岩永康久氏インタビュー

8月4日の Fuji Sankei Business に岩永幹事のインタビューが掲載されましたので転載します。

【インサイトアジア】対中接近の経済効果は限定的

台湾・馬政権、日米との関係強化“カード”に

- 馬政権の発足後、7月4日に中台直行週末チャーター便が解禁されて1カ月です

「中国との関係改善策が台湾の経済向上に結びつくと、公約で当選した馬総統。週末チャーター便や中国人観光客の台湾渡航解禁は既定路線であり、チャーター便から定期便に格上げを予定する来年7月ごろまではそのまま進みそうだ。(国民党政権を歓迎している)中国が馬政権に協力姿勢をみせており、このことが国際社会における閉塞(へいそく)感からの脱却という心理的な効果を台湾人に生んでいる」

- 台湾の経済効果は？

「そこは冷静な判断が求められる。中国人の台湾観光による経済押し上げ効果はある。だが台湾企業への対中投資規制の緩和策の場合、すでに第三国などを通じて中国進出しているケースが多いことを考えると、新たな投資が大幅に伸びるとは考えにくい。逆に伸びすぎても台湾の産業空洞化と失業問題というジレンマがある。一方で、米サブプライム(高金利型)住宅ローン問題が起点の世界的な経済下降圧力と、同時発生しているインフレから台湾も逃れられずマイナス要因として働く。プラスマイナスを考慮すると1年で大きな改善は望みにくい」

「その面では対中接近の経済効果は限定的であり心理的な面にとどまりそうだ。政権発足から3カ月も経過していないが、馬政権への支持率は(発足時よりも)15ポイントほど落ちている。経済面で早期に結果を出せばいいが、さもなくば台湾住民の不満が大きくなる恐れもある」

- 中国政府の出方は？

「共産党と国民党や双方の窓口機関どうしのトップ会談実現のほか、王金平・立法院長(国会議長)訪米、訪日の黙認など陳水扁前政権時代には中国が首を縦に振らなかった事柄が相次ぎ実現した。これは一歩前進として評価すべきだが、これが中国の基本的姿勢の変化とはいえない。今後は台湾の世界保健機関(WHO)加盟のほか、自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)の締結など、国際舞台での台湾の地位を胡錦濤政権がどこまで認めるか。この点が中台関係の中期予測のポイントとなる。要人訪問は一過性だが、国際機関などはひとたび加盟すれば永続的な問題になるだけにカギを握っている」

- 中国もなかなか一足飛びには行きそうもありません

「中国の本音は『台湾との統一』にあり、台湾が経済力で強い自信をもち、アイデンティティー(国家意識)を高めることを警戒している。一方で、独立志向ではない国民党の馬政権維持を中国も望んでいる。中国にとっては台湾経済が好調で馬政権の支持率が上がっても、台湾の自信が強くなりすぎると困るし、逆に経済低迷で馬政権が

弱体化するのも困る。国際機関にどこまで台湾の参加を認めるかも悩ましい。台湾住民の不満が募れば2012年の総統選も安泰とはいえない。中台蜜月時代を演出しながら、どこまで馬政権に譲歩するか。バランスを中国は吟味している段階だ」



- 米国は中国と台湾の接近をどうみているでしょうか

「イラクや北朝鮮問題など対中譲歩を迫られているブッシュ政権は現段階で、台湾問題を蚊帳(かや)の外に置いているように見えるが、同時に馬政権の台湾が中国に寄り過ぎていないか不安視している。西太平洋防衛で日本から台湾を経てフィリピンに至る『第1列島線』に対し、米国の方針に揺らぎがあるとの意見もある。しかし、大統領選で共和、民主どちらが勝っても米国は変わらないとみている」

「台湾の安全保障は第一義的には台湾住民の問題だが、本質的に日本の問題でもある。台湾海峡というシーレーンがぷつり切れる。仮に米国が台湾への関与を放棄する選択をしたとすれば、それは日本の存立にかかわる。日本政府は台湾問題を日本特有の問題として長期的観点で独自に政策を確立、真剣に取り組む必要があるだろう」

- 馬政権が「中台統一」をめざす心配はありませんか

「馬英九氏とは何度か会って直接英語で話したが、留学先の米国の自由民主主義を信奉する人物だと感じた。中国人としての意識もあろうが、民主化されていない中国の現状では馬氏の信条としても、また、台湾住民としても(統一は)受け入れられない。ならば中国が民主化された後ならどうか。可能性は出てくる。しかし、馬氏が台湾の総統の地位を降りてまで、統一中国におけるナンバー2のポストを選択するだろうか。鶏口牛後のことわざもあり、そのような判断にはなりにくい」

- 6月に起きた尖閣諸島沖の漁船沈没事故の対応は？

「尖閣諸島の領有権問題が馬氏本人の博士論文のテーマであり、事件直後は心配した。加えて台湾内部の『反日』グループの突き上げもあり、馬政権の対日政策を占う機会になった。結果として総統としての馬氏は日台関係の重要性を認識し、穏当な解決を図ったといえる。本件は解決済みと考えてよい。馬政権は今後、政治の実践上は是々非々で対日関係を重視する。中台蜜月時代をどう続けるか。時間が経てばいろいろな問題も出てこようが、馬政権にとっては米国や日本との関係をどう強めるかが“カード”になる」

新会員・会友紹介

次の方々から入会の申し込みがありました。会員・会友一同心より歓迎します。

会 員

興石 邦豊さん 昭和44年政治経済学部経済学科卒業

橋本 紀明さん 昭和54年政治経済学部政治学科卒業 勤務先：(株)コスモトレードアンドサービス 経営企画部

鶴田 一夫さん 昭和57年法学部卒業 勤務先：(株)つながりのデザイン研究所

陳恵 珍さん 昭和58年商学部卒業、昭和60年大学院商研前期終了 勤務先：(有)フランス インターリミテッド(経営) 紹介：渡邊義典様

会 友

藤原 慶子さん 名古屋南山大学仏文科 日台友愛会 日本支部長、(有)スパンク代表取締役社長 紹介：北村友雄幹事

退会会員

次の方々から退会の申し出がありましたのでご案内いたします。

磯島 茂男さん、宮本 孝さん、小林 保雄さん、守屋 寧夫さん、山本 賢一さん、五十嵐 亨さん

母校関連NEWS

台湾で“日本留学展”開催、早稲田ブースは大人気

7月13日 台北市世界貿易センター

前日の高雄に続き台北で“2008年日本留学展”が開催されました。

これは、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)が主催し、日本の大学や専門学校が日本留学に関心のある台湾学生に自校の説明とPRを行うもので、今年は国立私立大学50校、専門学校・各種学校111校が参加、学校生活の説明だけでなく、宿舎の決め方を含め日本での生活相談にのるなど、きめ細かなガイドが参観者に好評でした。

昨年より3000人以上多い約8000人の参観者でにぎわったこの留学展の中でも、早稲田大学のブースは他を圧する大人気、設営前から訪問者があるほどで、説明員は昼食の時間も取れずにコンビニのおにぎりを1個ずつやと食べたような状態でした。それでも、早稲田をもっと知りたい、早稲田に留学したいという若い台湾人の熱意に何とかして応えたいと、多くの稲門校友がボランティア参加し、大学職員と共に大車輪の活躍を見せてくれました。

ボランティア参加いただいたのは次の方々です。(順不同)

涂世俊さん(みずほ銀行台北支店)、李佳秦さん(台湾大学から文学部留学中)、黄涵琳さん(9月に別科日本語研

究に留学予定)、長田光生さん(台北稲門会幹事長)、長田夫人、大導寺さん(台北稲門会会員)、羽原美紀さん(台北稲門会会員)、渡邊義典さん(台湾校友会)(李佳秦さん、黄涵琳さんのお二人には前日の高雄会場でも活躍いただきました。)



早稲田ブース前は通行不能の混雑ぶり

*この記事は渡邊義典さんが寄稿された文を短くまとめたものです。全文は日台稲門会ホームページに掲載しましたので、そちらをご覧ください。

*写真は長田光生さんが撮影されたものです。

(日台稲門会ホームページ <http://members2.jcom.home.ne.jp/nittai/080515saisinjoho.html> より)

早稲田大学 台北国際交流センターを開設

早稲田大学は、台湾における学術的交流と教育研究活動の発展を目的に、7月14日「早稲田大学台北国際交流センター」(台北市南京東路二段123号新光人壽大樓5階)を開設しました。同センターは、早稲田と台湾との友好関係をさらに強化することを目指しています。また、台湾の著名な8大学(中国文化大学、中原大学、国立政治大学、国立中山大学、国立台湾師範大学、国立台湾大学、淡江大学、東海大学)及び工業技術研究院と学術交流協定を結び、共同研究の推進、共同教育の実施、留学生受け入れのための環境整備を

双方向
で進め
てきま
した。



左より董会長、白井総長、蔡焜燦氏

早稲田大学台北国際交流センター開幕式出席報告

7月13日午後7時から台湾校友会及び大学関係者主催の交流宴会が台北・国賓飯店で催され、来賓として陳鴻基・亜東関係協会会長、交流協会副代表が出席されました。

翌14日の午前10時から台北国際交流センターで開所式が行われ、白井総長の挨拶の後、大野国際部長

の趣旨説明、感謝状贈呈、祝辞、事業所内覧と続き、11時30分からは懇親会が行われて約70名が参加しました。(出席：岩永記)



李遠哲博士の祝辞

会 合 予 告

早稲田大学台湾校友会2008年総会のご案内

1. 大会

日 時：11月29日(土) 17:00~18:00 受付及び早稲田大学台北事務所見学
18:00~19:00 開会式及び貴賓挨拶
19:00~21:30 夕食会

場 所：台北)新光人壽大樓16階(台北市南京東路二段123号)

費 用：校友 NT\$1,500 元、同伴者 NT\$1,000 元、学生 NT\$500 元

会員年会費：NT\$200 元、新会員入会費：NT\$500 元(新会員終身会員会費：NT\$2,500 元)

2. 娯楽活動

Aコース ゴルフ

日 時：11月30日(日) 10:30 集合 11:00 スタート

場 所：老淡水ゴルフ場(台北縣淡水鎮中正路一段6巷32号 TEL: (02) 2623-0114)

Bコース 観光ツアー

日 時：11月30日(日) 9:30 国賓ホテル ロビーに集合

場 所：桃園神社(桃園市成功路三段200号)

注)9月1日付けで事務局より会員の皆様へ詳細のご案内を発送しました。参加の方は同封の用紙にて事務局までご連絡下さい(締切10月20日)。又、総会前日(11/28)に台北稲門会との懇親会を計画中です。総会参加の会員には別途ご連絡致します。

編 集 後 記

当会も大変お世話になった許世楷台北駐日経済文化代表処前代表が七月、離日された。高承の通り、許氏は台湾民主化、独立運動の闘士としても、著名である。しかし、運動の道程は非常に険しいものであったようだ。

六月の許代表夫妻を送る会で孫の安信元首相が明らかにしたように、当時の岸信介自民党は国府と密接な関係にあり、ブラックリストに載った運動家の強制送還に協力していた。一方左派は中共併せて北朝鮮、旧ソ連支持、殆どマスコミや日本人は無関心を決め込み、孤立無援の中での活動だった。

潮流が変わったのは、李登輝元総統時代の国府自身による民主化が進んでから。これより運動自体が認知され、やっと帰国の道が開けた。さらに大陸反攻の国民党が親中共に変更してからは、日本の保守陣営との関係も改善された。

さて、前代表の離任直前、尖閣諸島沖で台湾の遊漁船が日本の巡視船と接触し沈没する事件が起きた。与党国民党議員は説明のため帰台した前代表を「台奸」と呼ばわりし、前代表は、志し有る者は殺されても辱めは受けないと辞意を表明した。闘志未だ衰えを知らずは、和藤内(國性爺)の心意気か。また劉行政院長の開戦発言は人民解放軍のものだ。

さて中山前国交相の「これ得」傘一民蔭、白教祖発言に対する非難は右も左も同じで大政翼賛会現象を呈しているが、事の本质に迫る意見が聞かれない。わが日本は許前代表のよき方な方はもはや現れ難い国なのかと思つ。